



NIHU



国文学研究資料館 2019

National Institute of Japanese Literature



後鳥羽院宮内卿

## Contents

はじめに	3
概要	4
研究概要	6
日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画	7
事業概要	14
国際交流	23
大学院教育	25
公開データベース	26
教員一覧	27
参考データ	29
人間文化研究機構	30

# はじめに

国文学研究資料館

館長 ロバート キャンベル

平成31年度は200年ぶりの天皇ご退位に伴う新元号の発表と共に発足しました。一ヶ月後に「令和」という時代が始まり、元号が国書(=日本の古典)から採用されたことの意義について様々な意見が報道されました。生まれたばかりの「令和」という言葉が日本最古の歌集である『万葉集』巻五「梅花歌三十二首并序」序文を出典とすること、また人々の安寧と繁栄への思いが時と共に移ろう自然の営みに重ねられるという含意に対して、日本文学徒の一人として嬉しく思いました。元号の出典に中国古典の影響が見出せるという事実も、日本列島の文学がかつてもグローバルと言える包容力と創意性を根底に持っていたことを思い出させてくれる出来事でした。人々を明日へと向かわせる文学の力を示すタイムリーな一例とも言えそうです。

ところで国文研の書庫にはいくつもの『万葉集』があります。重要文化財3点を含む館蔵古典籍15点のほかに、340タイトルもの『万葉集』の閲覧が可能です。そのうちの50点以上がデジタル画像としていつでも全冊閲覧できます。新しい時代の幕開けに、これらの書籍を皆さまにぜひ鑑み、味わっていただきたいと思います。

今年度も、国文研では従来から進めているいくつものプロジェクトに加えて、新規事業の準備と遂行にいそしんでいます。

10年間に及ぶ「歴史的典籍ネットワーク事業」(NW事業)の折り返し点を越え、国内にある20の拠点大学を中心に協力体制を強め、広範囲にわたる古典籍の画像収集とタグ付けを加速させています。大英図書館はじめ、海外にある有力な資料保有機関との学術協定を結び、以前から手がけている国際共同研究と並行するかたちで海外の研究者育成および資料保有機関とのネットワーク構築にいっそうの力を注ぐ所存です。昨年創刊した英語によるオンライン・ジャーナル *Studies in Japanese Literature and Culture* の第2号を発信したのもその成果の一つです。

国文研では、NW事業から産み出される様々な成果を推進し発展させるために「国際コンソーシアム」(仮称)の設立を来年度に実現すべく、今年度中からその構築に向けた準備に着手したところです。

コンソーシアムとは複数の機関による共同事業体の一つ、資源の共有や企画立案・施行を進める継続的な連携モデルをいいます。当館が構想するコンソーシアムは、NW事業の拠点大学を土台に据え、国内外にある様々な研究・教育および資料保有機関との連携を深めるための学術プラットフォームというものです。令和4年に発足する第四期中期目標期間において、国内の大学・研究機関はグローバル戦略に加えて資源の共有、人材育成、地域連携などへの積極的な取り組みが求められているところです。「国際コンソーシアム」は、NW事業を通して築き上げようとしているデータ資源と人的・機関間ネットワークの厚みを活かし、次なる目標に向けて広義の日本文学を人文科学の活性につなげるための連携組織をめざしていきます。

国文研では、地域社会との連携と研究者コミュニティの外に広がる諸分野への発信と協業を加速させています。昨年度多摩信用金庫との間に協定を結び、これに基づいて「ぶらっとこくぶんけん 一多摩学術文化プラットフォーム」を立ち上げました。蓄積されたデータや研究実績、グローバルな人的ネットワークなどを国文研が立地する多摩地域の中で活用していただく取り組みで、今年度からいくつもの魅力的なイベントや事業などを計画する一方、地域企業との連携を強め、寄付金の受け入れを開始しています。今春から『読売新聞』多摩版で掲載を始めた連載「国文研 千年の旅」も事業の具体的な取組みのひとつです。

一昨年度から展開する「ないじえる芸術共創ラボ」においても新たに加わった若手アーティストの活動に加え、当初から共同作業を進めているアーティスト数名と翻訳家の成果総括と、発表の準備にいそしんでいるところです。「ぶらっとこくぶんけん」も「ないじえる芸術共創ラボ」も、当館のウェブサイトおよびSNS上で活動の詳細を順次伝えていますので、多くの方々のご参照とご参加をお願いしたいと考えております。



# 概要

## 国文学研究資料館のめざすもの

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来40年以上にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

## 沿革

- 1966年12月 日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター（仮称）」の設置を政府に勧告
- 1970年 9月 学術審議会が「国文学研究資料センター（仮称）」の緊急設置を文部大臣に報告
- 1971年 4月 文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上
- 1972年 5月 国文学研究資料館創設（管理部、文献資料部、研究情報部）  
文部省史料館（1951年設置）が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
- 1977年 6月 開館式挙行
- 〃 7月 閲覧サービス開始
- 1979年 4月 整理閲覧部設置
- 1987年 4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 1992年 4月 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 2002年11月 創立30周年記念式典挙行
- 2003年 4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
- 2004年 4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる  
法人化に伴い、館内組織を改組
- 2008年 3月 立川市緑町の現在地に移転
- 2013年 4月 古典籍データベース研究事業センター設置
- 2014年 4月 古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組
- 2019年 2月 多摩学術文化プラットフォーム「ぶらっとこくぶんけん」設立

## 施設について

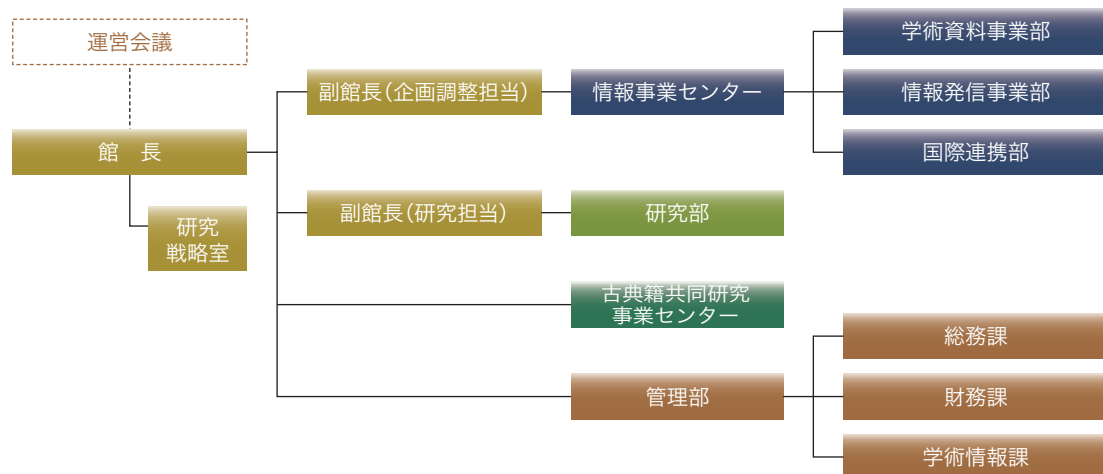
当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、1989年8月及び1993年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、2008年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計となっています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書をすべて開架にしておき、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍による通常展示等を行います。



## 組織図



## 運営会議

### 館外委員

青柳 正規	山梨県立美術館長
安達 淳	情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長
飯倉 洋一	大阪大学大学院文学研究科教授
上野 健爾	四日市大学関孝和数学研究所長
江川 雅子	一橋大学経営管理研究科教授
金 文京	京都大学名誉教授
木村 茂光	東京学芸大学名誉教授
小長谷有紀	日本学術振興会監事
鈴木 俊幸	中央大学文学部教授
高岸 輝	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
谷 知子	フェリス女学院大学文学部教授
十重田裕一	早稲田大学文学学術院教授

### 館内委員

入口 敦志	研究部教授
大友 一雄	研究部教授
落合 博志	研究部教授
神作 研一	研究部教授(研究主幹)
齋藤真麻理	研究部教授(研究主幹)
谷川 恵一	副館長(研究担当)
山下 則子	副館長(企画調整担当)
山本 和明	研究部教授
渡辺 浩一	研究部教授(研究主幹)

## 役職員

館 長	ロバート キャンベル
副館長(企画調整担当)	山下 則子
副館長(研究担当)	谷川 恵一

### 研究部

研究主幹	神作 研一
研究主幹	齋藤真麻理
研究主幹	渡辺 浩一

### 情報事業センター

情報事業センター長(併任)	山下 則子
学術資料事業部長(併任)	神作 研一
情報発信事業部長(併任)	渡辺 浩一
国際連携部長(併任)	齋藤真麻理

### 総合研究大学院大学文化科学研究科

日本文学研究専攻長	落合 博志
-----------	-------

### 古典籍共同研究事業センター

センター長(併任)	谷川 恵一
事務室長	河野 浩

### 管理部

管理部長	山本 慎一
総務課長	濱 由樹
財務課長	進藤 光
学術情報課長	土井 昭人

# 研究概要

日本文学及びその関連領域の資料を学術基盤として整備するとともに、人文学の一環としての日本文学研究の一層の推進を目的として、外部の研究者が参加する共同研究委員会を設置して、以下の共同研究を行っています。

## ■ 基幹研究

研究の基盤となる日本文学及びその関連資料に関する基礎研究を進展させる基幹研究を3課題実施しています。

### ● 十九世紀地域文化拠点の総合的研究 ―廣瀬家を中心として―

(2019年度～2023年度)

研究代表者：入口 敦志 国文学研究資料館・教授

江戸時代の代表的な私塾の一つである咸宜園については、廣瀬淡窓・旭莊の漢学を中心に研究が進められてきた。しかし、歴代の当主が地域の文化活動の中心となって活動していたことはあまり知られていない。本研究では、廣瀬家に所蔵される豊富な蔵書と古文書を分析することで、地域におけるその文化活動の全体像を明らかにしようとするものである。

### ● 地方協創によるアーカイブズ保全・活用システム構築に関する研究

(2019年度～2021年度)

研究代表者：西村 慎太郎 国文学研究資料館・准教授

地域博物館・図書館・文書館などと住民・学生参加型の資料整理と資料分析を実現するとともに、地域住民が自律的に地域アーカイブズを継承・活用し、研究者がそれをサポートするという協創関係を構築し、全国的に参照される事例とすることを目指す。

### ● 日本語の歴史的典籍データベースの検索に関する総合的研究

(2015年度～2023年度)

研究代表者：相田 満 国文学研究資料館・准教授

本研究は「歴史的典籍NW事業」の一環として、館内教員全員で進められる。古典籍に蓄積された全分野に及ぶ知見を効率的に活用するためには、データベース化された画像からの文字によるナビゲーションが欠かせない。研究はその手助けを、文学・歴史等の各担当の専門性に即して進めるものである。

## ■ 特定研究

日本文学研究を推進させる課題に取り組む特定研究を2課題実施しています。すべての課題は公募によるものです。

## 公募（一般）

当館の所蔵資料（原本資料・マイクロフィルム資料等）を活用した日本文学及び関連諸分野を含む創造的で幅広い研究。若手研究者の参加を奨励しています。

### ● 軍記および関連作品の歴史資料としての活用のための基盤的・学際的研究

(2018年度～2020年度)

研究代表者：井上 泰至 防衛大学校・教授（国文学研究資料館・客員研究員）

近世軍記の中には、事実の解明、および歴史的事件のイメージ形成の解明に役立つ資料が多い。秀吉関係の軍記とその周辺資料の悉皆調査を行うことで、その資料の価値について明らかにし、信長や関ヶ原・大坂の陣など周辺の資料とも適宜比較しながら、近世軍記の歴史資料としての有効性の検討方法についてモデルを提示することを目的とする。

## 公募（若手）

若手研究者による明確な目標と適切な研究計画を有する、日本文学に関する創造的研究。

### ● 近世前期における和刻本仏書の基礎的研究

(2019年度～2020年度)

研究代表者：木村 迪子 お茶の水女子大学・基幹研究院研究員（国文学研究資料館・客員研究員）

本研究では、近世前期に各宗派の宗学の中で漢製仏典がどのように受け入れられ、和刻本として展開していったかを解明し、また、中国仏教思想の近世期における受容状況の側面から、国際的な観点での近世仏教の再評価を目指す。これと並行して、17世紀前半に刊行された和刻本仏書の頒布状況可視化のために目録化を試みる。

# 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

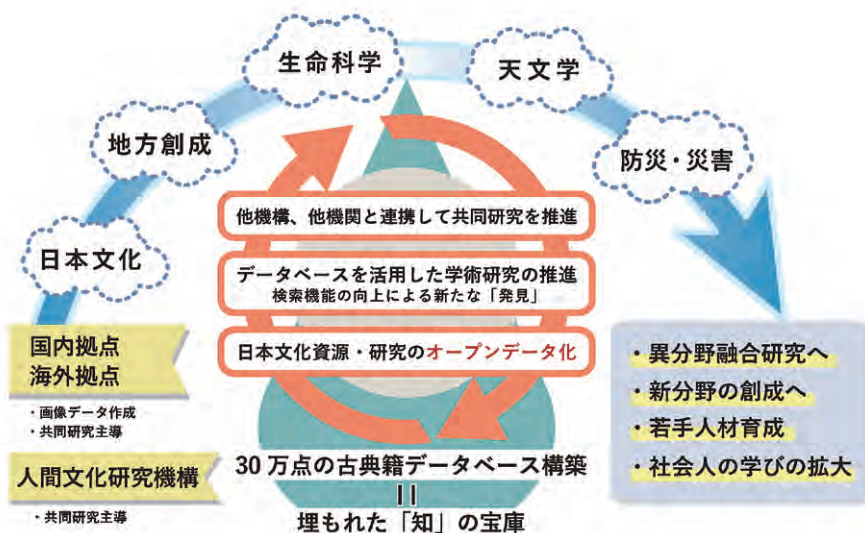
(略称：歴史的典籍NW事業／NIJL-NW project)

本事業は、当館が中心となり、国内外の大学等と連携して、古典籍約30万点の全冊画像化を行い、当館が構築してきた古典籍の書誌データベースと統合して、自在に画像を検索できるデータベース「新日本古典籍総合データベース」という研究基盤を作り、その画像を用いて国際的な共同研究のネットワークを構築するものです。

こうした古典籍の画像化は、文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の後世への継承にも貢献することになります。

本事業における共同研究では、データベースを活用し、人文学分野にとどまらず、自然科学分野までを包括する文理融合による国際的な規模での共同研究を推進してまいります。

## NIJL-NWプロジェクト概要図



## 実施計画

2014年度から2023年度までの10年間で実施します。国際的に共同研究を展開し、併せて共同研究のテーマと連動させながら古典籍に関するデータベース「新日本古典籍総合データベース」の拡張を進めていきます。

古典籍画像は、分野別に収集し、順次公開する予定です。

### ①日本語の歴史的典籍DBの構築

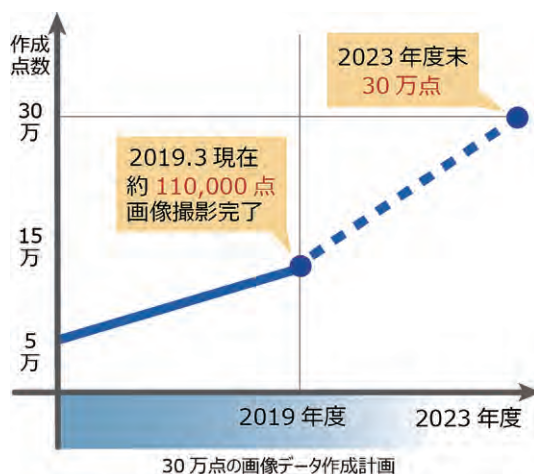
- ◆30万点の画像データの作成
- ◆新日本古典籍総合データベースの運用
- ◆検索機能の向上化・多言語化対応

### ②国際共同研究ネットワークの構築

- ◆異分野融合を踏まえたネットワークの拡充

### ③国際共同研究の推進

- ◆異分野融合研究の醸成
- ◆「総合書物学」の創出
- ◆文献観光資源学研究的の推進

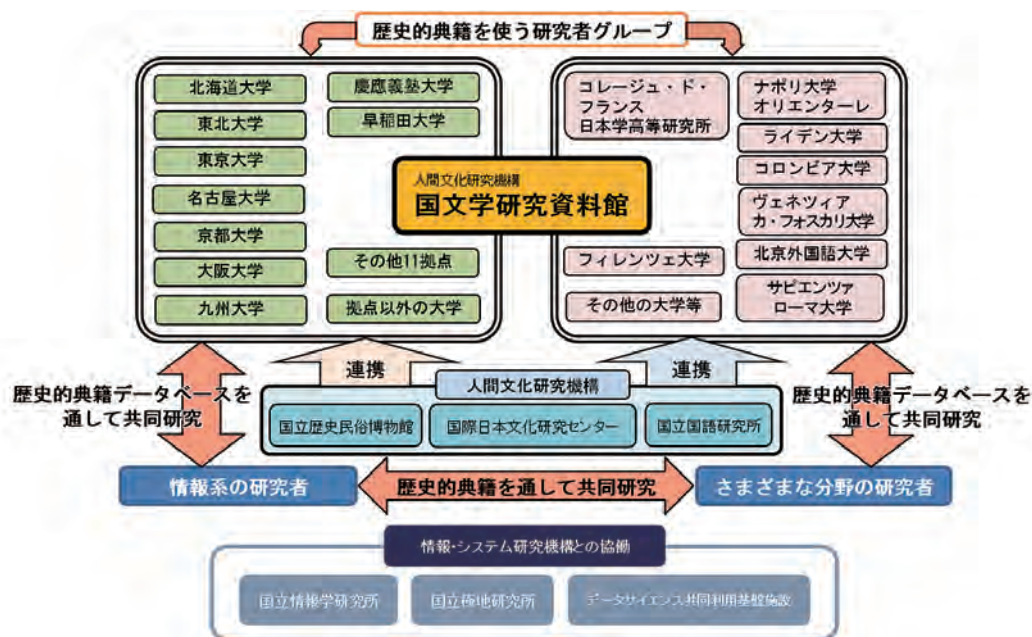


2019年度は、医学・理学に加え、産業・武術・宗教・歴史分野を中心とした画像作成を、当館、拠点大学及び研究機関等において実施。引き続き専門性の高い分野別収集を推進します。翌年度4月以降、順次画像公開予定です。

## 実施体制

2014年4月に、当館に本事業を推進するために古典籍共同研究事業センターを設置しました。当館のほか、人間文化研究機構の各機関や、国私立大学に設置する20拠点及び国内外の研究機関、並びに国立情報学研究所、国立極地研究所等と連携して本事業を実施しています。

古典籍共同研究事業センターには、センター運営委員会、日本語歴史的典籍ネットワーク委員会、国際共同研究ネットワーク委員会、拠点連携委員会、資料活用連絡協議会を置き、学識経験者や研究者コミュニティの意見を踏まえて、本事業を推進しています。また、センター運営委員会の下にNW事業実施委員会を置くことで、当館の全ての教員が本事業の全体を把握し、役割と責任を分担しつつ事業を推進していくための体制となっています。



国際共同研究ネットワークのイメージ

## 2018年度の画像情報作成状況（総点数 約1万6千点）

### ●拠点大学：デジタル撮影

東北大学（理学、諸芸（料理））、筑波大学（地理、産業、武学武術）、東京大学（医学、理学、産業等）、大阪大学（歴史）、京都大学（宗教・神祇）、神戸大学（産業、地理等）、広島大学（文学、思想）、慶應義塾大学（文学）、同志社大学（地理、思想等）、関西大学（文学）

### ●拠点大学：デジタル撮影（内製）

筑波大学（言語）、名古屋大学（思想、文学、理学）、広島大学（文学）

### ●専門性の高い分野別収集：デジタル撮影

中津市歴史民俗資料館（医学）、弘前市立弘前図書館（理学・産業・地理等）、東京海洋大学（産業）、東京書籍東書文庫（教育）、宮内庁書陵部（歴史）、茨城大学（歴史）、実践女子大学（文学）、専修大学（文学・思想）、国文学研究資料館（歴史・文学）

### ●専門性の高い分野別収集：デジタル撮影（内製）

研医会図書館（医学）、清光山西厳寺（宗教）、東京藝術大学（芸術）、東京書籍東書文庫（教育）、横浜国立大学（教育・思想）、個人蔵（文学）

### ●マイクロフィルムからの画像作成

宮内庁書陵部所蔵マイクロフィルム（歴史）、当館所蔵マイクロフィルム（歴史・文学）

### ●既存画像の提供

神戸大学附属図書館（産業、地理）、一橋大学附属図書館（歴史）、和歌山大学図書館（歴史、地理）、小泉吉永氏（往来物倶楽部）（教育）

※古典籍の所蔵者の皆様にデジタル化の際の参考にしていただくため、古典籍のデジタル化（撮影）マニュアルをクリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス（CC BY）の下に公開しました（2018年4月）。

# 新日本古典籍総合データベース

歴史的典籍NW事業の推進基盤となる「新日本古典籍総合データベース (Database of Pre-modern Japanese Works)」は2017年より公開されています。

文学分野のみならず医学・理学分野等あらゆる分野の古典籍画像も多く含まれており、人文学以外の研究者との異分野融合研究を醸成する研究基盤として、国内外の大学等と連携のもと、今後は古典籍30万点を擁する大規模画像データベースとなる予定です。

公開サイト

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>



## 新日本古典籍総合データベースの概要と特長

唯一の日本古典籍ポータルサイトとして、当館が長年蓄積した豊富な書誌と国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像が利用できます。

**Point1 探しやすい**

タイトルやキーワードでの検索のほか、画像に付けられたタグ、本文テキスト、おすすめキーワード、ピックアップコンテンツなど、多彩な検索ができる！

▲検索トップページ

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>

**Point2 引用しやすい**

電子データに付与される国際的識別子、DOI (デジタルオブジェクト識別子) の採用により、永続的なアクセスを保証。  
論文などに引用したいときに便利！

**DOI**  
<https://doi.org/10.20730/200021913>

変換

**新日本古典籍総合データベース**  
<http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021913>

データベースの URL が代わっても DOI は変わらず、リンク切れが発生しない

<https://www.doi.org/>

**Point3 活用しやすい**

デジタルアーカイブの新しい規格、IIIF (International Image Interoperability Framework : トリプルアイエフ) を採用。  
異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易！

▲画像ビューア

<http://iiif.io/>



利用にあたっては、パンフレットをご参照下さい。  
「新日本古典籍総合データベース パンフレット(クイックガイド付)」  
<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>  
からダウンロードできます。

こちらから  
パンフレットPDFを  
ご覧いただけます



## 新日本古典籍総合データベースで公開中の画像例



奈良絵本・大職冠

[ならえほん・たいしょかん・成立年未詳]

室町時代後半～江戸時代前期につくられた絵入りの「奈良絵本」のひとつ。金泥、銀泥、朱などが使われた極彩色で、藤原鎌足の物語が描かれている。

● DOI : <https://doi.org/10.20730/200016463>

## オープンデータの取り組み

当館では、古典籍をもっと自由に研究・活用いただくため、当館所蔵資料のオープンデータ化を進めています。その取り組みの一つとして、情報・システム研究機構の国立情報学研究所及びデータサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター（以下「CODH」）との協働により、CODHのサイトから以下の3種類のデータセットを公開しています。

いずれのデータも「クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス(CC BY-SA)」の下に提供していますので、この条件に同意される方であれば、どなたでもご利用いただけます。

当館オープンデータのサイト [https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data\\_set\\_list.html](https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html)

### ●日本古典籍データセット

【点 数】 3,126点 ※2019年1月現在

重要文化財や貴重書を含む国文学分野のほか、当館で収集した医学や理学、産業など多分野の古典籍、味の素の文化センターが所蔵する料理本等で当館が撮影した古典籍を含んでいます。

【構 成】 ①古典籍画像データ ②書誌データ ③本文テキストデータ ④タグデータ

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/pmjt/>

### ●日本古典籍くずし字データセット(旧名称：日本古典籍字形データセット)

【データ数】 4,645文字種 684,165字 ※2019年1月現在

国立国語研究所所蔵資料と味の素の文化センター所蔵資料を含む28点の資料から字形データを採取しています。

【構 成】 ①原本補正画像データ ②文字座標データ ③字形画像データ ④作業報告文書

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/char-shape/>

### ●江戸料理レシピデータセット

【点 数】 107種類

43種類は現代語訳データ有り、更にそのうち34種類は現代レシピデータがあります。

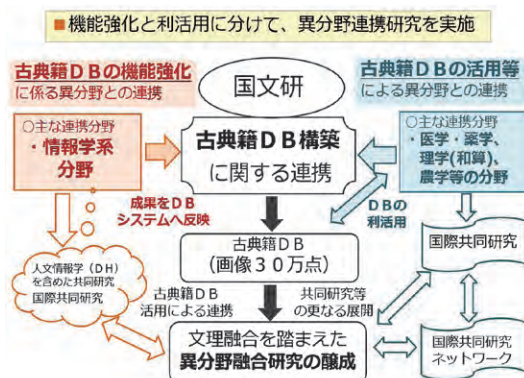
【構 成】 ①原本画像データ ②翻刻テキストデータ ③現代語訳データ ④現代レシピデータ

【公開サイト】 <http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/>

(CODHでの公開のほか、「クックパッド江戸ご飯」でも公開中です)

## 共同研究

本事業においては、国内外の多様な分野の研究者が参加した研究ネットワークを作り上げることによって、膨大に集積された日本古典籍に新たな研究の光を当て、それらを知的資源として活用していくことを目標としています。この目標に向け、すべての分野を網羅する30万点の日本古典籍の全冊画像データベースの構築に国内の諸大学と共同して取り組むとともに、先導的な共同研究を実施し、広く多様な分野の研究者に参画を促しています。



### ●国際共同研究

海外の研究者を中心に日本文化を総合的に研究するテーマに取り組む、日本古典籍を広い視野から利活用する共同研究です。

#### ●UCバークレー所蔵古典籍資料のインストールとキュレーション

(2018年度～2020年度)

研究代表者：ジョナサン ズイッカー カリフォルニア大学バークレー校東アジア言語文化学部・准教授

#### ●中近世日本における知の交通の総合的研究

(2018年度～2020年度)

研究代表者：ダヴァン ディディエ 国文学研究資料館研究部・准教授

## ●古典芸能における身体—ことばと絵画から立ち上がるもの—

(2018年度～2020年度)

研究代表者：ボナヴェントゥーラ ルペルティ

ヴェネツィア カ・フォスカリ大学アジア・地中海アフリカ研究学科日本学研究科・教授

## 異分野融合共同研究

【文献観光資源学】 総括：谷川 恵一 国文学研究資料館研究部・教授

### ●津軽デジタル風土記の構築

(2017年度～2019年度)

研究代表者：瀧本 壽史 弘前大学教育学研究科・教授

### ●碑文のデジタル復元に関する手法研究と実践

(2017年度～2019年度)

研究代表者：上相 英之 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター・客員研究員

### ●GISを用いた総合地域情報に関する国際発信方法に関する研究

(2017年度～2019年度)

研究代表者：山本 和明 国文学研究資料館研究部・教授

【典籍防災学】 総括：山本 和明 国文学研究資料館研究部・教授

### ●典籍等の天文・気候情報に基づく減災研究の基盤整備

(2017年度～2019年度)

研究代表者：片岡 龍峰 国立極地研究所・准教授

### ●歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成

(2017年度～2019年度)

研究代表者：田村 誠 茨城大学地球変動適応科学研究機関・准教授

【和食と伝統医学の研究】 総括：山下 則子 国文学研究資料館研究部・教授

### ●料理・調味料の復元と活用に関する研究

(2016年度～2019年度)

研究代表者：神松 幸弘 立命館大学グローバル・イノベーション研究機構・助教

### ●錦絵等に対するアノテーション付与の研究

(2017年度～2019年度)

研究代表者：小林 顕彦 味の素の文化センター食の文化ライブラリー・館長

山本 和明 国文学研究資料館研究部・教授

## 国文研主導共同研究

「総合書物学」の構築を目指す共同研究2件を科学研究費等の外部資金を活用し実施しています。

### ●書誌学・文献学の再構築

(2015年度～2019年度)

研究代表者：谷川 恵一 国文学研究資料館研究部・教授

### ●日本古典籍の比較書誌学的研究

(2017年度～2019年度)

研究代表者：落合 博志 国文学研究資料館研究部・教授

## 機構内連携共同研究

異分野融合の観点から「総合書物学」の構築を目指す共同研究を、人間文化研究機構の国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センターと連携し「広領域連携型基幹研究プロジェクト」として、当館が主導機関となり実施しています。

### ●異分野融合による「総合書物学」の構築 (2016年度～2021年度)

統括代表者：谷川 恵一 国文学研究資料館・教授

各研究ユニット

・古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究

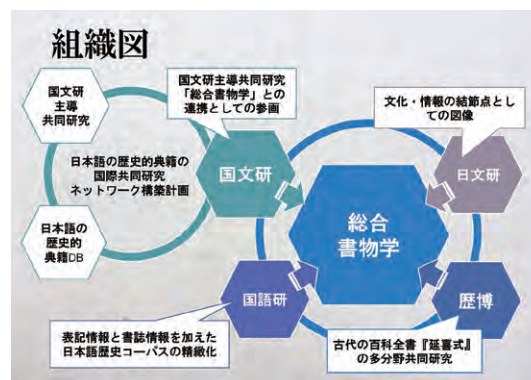
研究代表者：小倉 慈司 国立歴史民俗博物館・准教授

・表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化

研究代表者：高田 智和 国立国語研究所・准教授

・文化・情報の結節点としての図像

研究代表者：山田 奨治 国際日本文化研究センター・教授



## 研究開発系共同研究

検索機能の高度化等を推進するため、研究開発系共同研究を実施しています。

- キーワード抽出に関わる総合的研究(公立はこだて未来大学)
- 多言語対応
- 検索機能の高度化に係る総合的研究(国立情報学研究所、人文学オープンデータ共同利用センター)
- 「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」における典籍の全文テキスト化に関する検討協力(凸版印刷株式会社)
- テキスト共同作成ツールの開発
- 多元光情報の高次元化処理による古典籍情報解析に関する基礎的研究(奈良先端科学技術大学院大学等)
- TEI (Text Encoding Initiative) の導入(人文情報学研究所、東京大学等)

## 研究成果の発信及び広報活動状況

共同研究の成果や本事業の活動状況について、広く社会の理解を得るため、プレスリリースや、国際研究集会のライブ配信、市民参加型の取り組みを中心に活動を行っています。

### 2018年度プレスリリース

当館及び共同研究先の機関と連携した研究成果等のプレスリリースを積極的に展開しています。

2018年4月26日(木) くずし字教育コンテンツ「くずし字、いろいろ」を開発(国立極地研究所)  
→ 読売新聞や日本経済新聞に掲載されました!

2018年4月27日(金) 太陽の自転周期が雷の発生に影響していることを、江戸時代の日記の分析により明らかに(国立極地研究所、武蔵野美術大学、成蹊大学、総合研究大学院大学)【論文発表】  
→ 本成果は「Annales Geophysicae」にオンライン掲載、本リリースも日刊工業新聞や読売新聞に掲載され、さらには本リリースの英語版が「サイエンス」誌発行元の米国科学振興協会(AAAS)が運営する科学ニュースサイト「EurekAlert!」に掲載されました!

2018年6月18日(月) 国立国会図書館国際子ども図書館にて、中高生を対象に江戸料理本についての共催イベントを開催

2018年7月6日(金) 東京書籍株式会社附設教科書図書館 東書文庫の往来物(昔の教科書)を公開(東京書籍株式会社)

2018年10月9日(火) 市民参加型ワークショップ「古典オーロラハンター IN 京都」開催(国立極地研究所、京都大学附属図書館)

2019年2月25日(月) 近世宮中儀式に関する貴重な資料(宮内庁書陵部所蔵)をデジタル公開



4月27日リリース

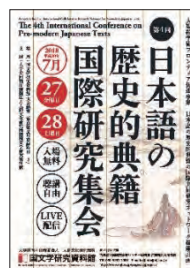


2月25日リリース

### 当館主催のシンポジウム等(海外でのイベント開催)

- 第4回「日本語の歴史的典籍国際研究集会」を開催しました(2018年7月27日(金)～28日(土))。各パネルの発表要旨をウェブサイトに掲載し(和文・英文)、当日の様子はインターネット上でライブ配信を実施しました(一部は再生動画配信実施)。

- アメリカ・デンバーで開催された2019年アジア学会年次大会(AAS 2019 Annual Conference)のInformation Meetingとして”PRE-MODERN JAPANESE BOOKS: International Share and Translation of Japanese Codicological Terms”を開催しました。(2019年3月23日(土))



国際研究集会

## その他の活動状況

- 国立国会図書館国際子ども図書館と共催で、夏休みの中高生を対象に、「図書館で! ネットで! 楽しい古典籍—おいしい江戸料理本の世界」と題し、山本副センター長が講演しました。  
(2018年8月2日(木) 国際子ども図書館)  
併せて7月24日(火)～8月9日(木)の間同図書館で関連の展示会も開催しました。



- 日本デジタル・ヒューマニティーズ学会 第8回総会 (JADH2018) と TEI Conference & Members' Meeting 2018 (TEI2018) との共催で行われた JADH and TEI Joint Keynote Session において、“The NIJL Database of Pre-modern Japanese Works” と題してキャンベル館長が基調講演を行いました。  
(2018年9月10日(月) 一橋講堂)



JADH and TEI Joint Keynote Session 基調講演

- 第29回日本資料専門家欧州協会年次大会 (The 29th EAJRS Conference in Kaunas) において、歴史的典籍NW事業における日本古典籍のデジタル化コレクションと利活用について発表しました。  
(2018年9月14日(金) リトアニア・カウナス)



第29回日本資料専門家欧州協会年次大会

- 第20回図書館総合展に昨年に引き続き出展しました。3日間で1200人以上がブースを訪れました。  
(2018年10月30日(火)～11月1日(木) パシフィコ横浜)

- 韓国語日文学会2018年冬期国際学術大会において開催された絵入本学会「絵入本ワークショップⅪ」で、新日本古典籍総合データベースを韓国の若手研究者等に紹介しました。  
(2018年12月15日(土)～16日(日) ソウル 明知大学校)



韓国での新日本古典籍総合データベース紹介

- 市民参加型ワークショップ「古典オーロラハンター IN 京都」を開催しました(共催: 国立極地研究所、京都大学附属図書館)。  
(2018年11月18日(日) 京都大学附属図書館)



古典オーロラハンター IN 京都

- 国際共同研究の成果発信の場として、英文オンライン・ジャーナル“Studies in Japanese Literature and Culture”を創刊しました。



URL: <https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/sjlc.html>

- 本事業を紹介するニューズレター「ふみ」を2回(10号、11号)発行しました。ホームページからもPDF版の配信をしています。



URL: [http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter\\_fumi\\_new.html](http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter_fumi_new.html)

# 事業概要

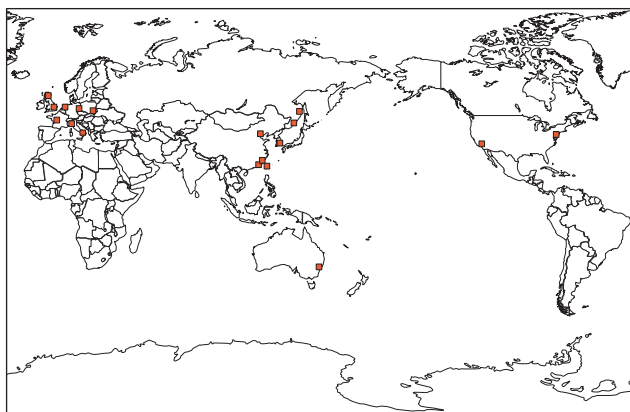
## 事業の目的

国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、撮影及び原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらを様々な方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

## 1 調査収集

全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料（写本・版本等）の所蔵先に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

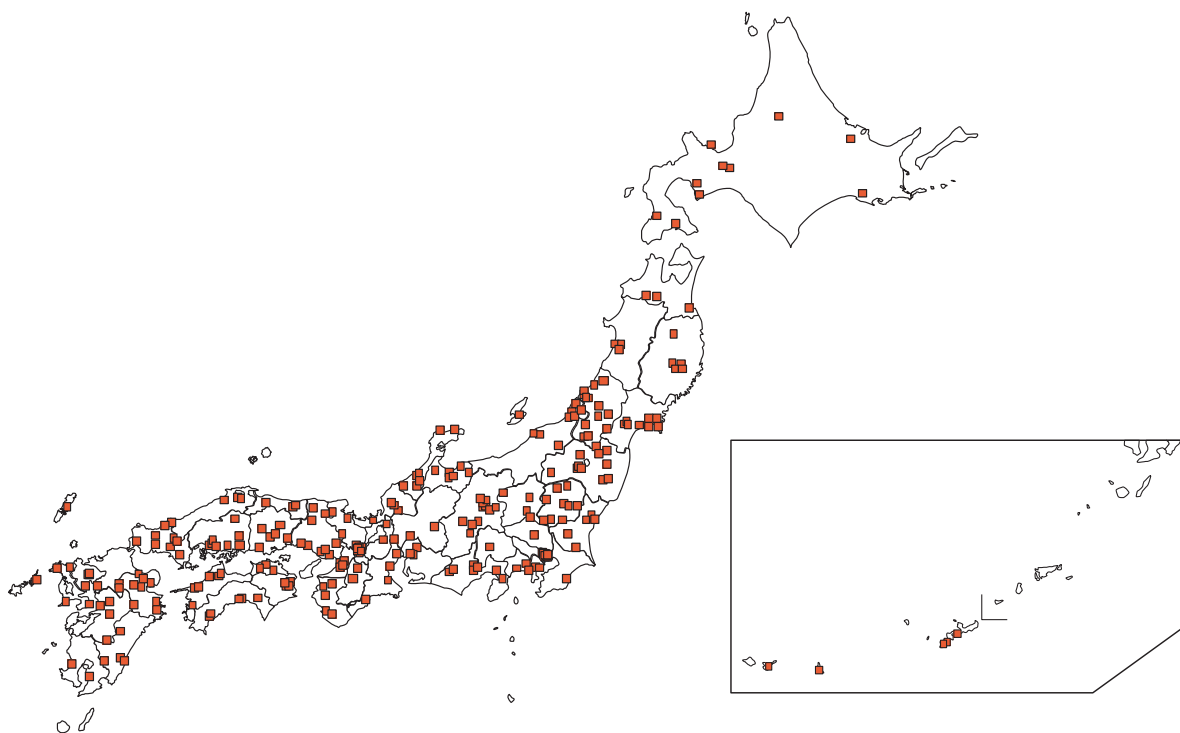
こうした調査研究と併行して、全国の図書館・文庫等に所蔵される原典資料を、マイクロフィルム又はデジタル画像として全冊撮影することによって収集し、一般に提供しています。



これまでの調査・収集件数

調査	国内	1,035箇所	421,339点
	海外	67箇所	16,367点
	計	1,102箇所	437,706点
収集	国内	387箇所	210,805点
	海外	13箇所	1,518点
	計	400箇所	212,323点

全国に散在する日本文学及び関連資料の数は、およそ100万点と推計されており、現在その約20%がフィルム、画像、または原本によって当館で読むことが可能になっています。



## ■ 2018年度調査箇所一覧

### 関東地区

尊経閣文庫

宮内庁書陵部

最明寺

国立国語研究所

### 中部地区

諏訪市博物館

池田三郎

嵐牛俳諧資料館

名古屋市博物館

舟津神社

浜松市立賀茂真淵記念館

### 近畿地区

中庄新川家

大阪天満宮御文庫

貝塚御坊願泉寺

芭蕉翁顕彰会

陽明文庫

春日大社

### 中国・四国地区

鳥取県立博物館（久松閣文庫）

手銭記念館

光市文化センター

総本山善通寺

鎌田共済会郷土博物館

宇和島伊達文化保存会

高知県立高知城歴史博物館

正宗文庫

### 九州・沖縄地区

天草上田家

諏訪神社（諏訪文庫）

大分県立先哲史料館

祐徳稲荷神社（中川文庫等）

徴古館

### 近代

函館市立中央図書館

弘前市立弘前図書館

酒田市立光丘文庫

会津若松市立会津図書館

山田俊治

星槎ラボラトリー（眞山青果文庫）

大阪大学附属図書館（忍頂寺文庫）

山梨大学附属図書館（近代文学文庫）

祐徳稲荷神社（中川文庫等）

アドミュージアム東京

尾鷲市立中央公民館郷土室

早稲田大学図書館

## ■ 2018年度収集箇所一覧

### 北海道・東北地区

宮城県図書館（伊達文庫）

### 関東地区

宮内庁書陵部

法政大学（鴻山文庫）

### 中部地区

新潟大学附属図書館（佐野文庫）

富山市立図書館（山田孝雄文庫）

嵐牛俳諧資料館

### 近畿地区

京都市歴史資料館

京都女子大学（蘆庵文庫）

陽明文庫

相愛大学図書館（春曙文庫）

芭蕉翁顕彰会

貝塚御坊願泉寺

### 中国・四国地区

鳥取県立図書館

山口大学附属図書館（棲息堂文庫）

総本山善通寺

宇和島伊達文化保存会

愛媛大学図書館（鈴鹿文庫）

正宗文庫

安田女子大学（稲賀文庫）

### 九州・沖縄地区

祐徳稲荷神社（中川文庫等）

肥前島原松平文庫

松浦史料博物館

諏訪神社

廣瀬資料館

### 近代

八戸市立図書館

山梨大学附属図書館（近代文学文庫）

大阪府立大学学術情報センター図書館（近代文庫）

### アーカイブズ

真田宝物館（真田家文書）

江川文庫

※所蔵者名敬称略

## 2 資料利用

図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送・FAX・メールにより複写申込をすることができます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。



図 書 館

### 利用案内

利用時間	開館時間	平日	9：30～18：00（史料・貴重書の閲覧は9：30～17：30）		
		土曜	9：30～17：00（史料・貴重書の閲覧は9：30～16：30）		
	書庫資料 閲覧受付	平日	9：30～17：00		
		土曜	9：30～16：00		
	複写受付		9：30～16：00		
休 館 日			・ 日曜日、祝日・振替休日 ・ 年末年始（12月27日から1月5日） ・ 蔵書点検期間（2月25日から2月29日） ・ 第2第4水曜日 ・ 夏季一斉休業日（8月13日から15日） ※その他、都合により臨時に休館・閉館する場合があります。掲示、当館Web ページで確認してください。		
サービス	閱 覧	マイクロ資料、和古書（写本・版本）、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、 逐次刊行物（土曜日は、史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には 事前予約が必要）			
	複 写	電子複写（リーダープリンターによる複写も含む）・ポジフィルム（ただし史料 は除く）			
	撮 影	史料等、電子複写できない資料			
	貸 出	紙焼き写真本の一斉貸しサービス（一部を除く）			
	展 示 貸 出	図書館、文書館、博物館等への貸出			
	参 考 調 査	所蔵調査・参考質問の受付、回答			
	相 互 協 力	図書館間の相互協力（ILL）による文献複写、資料貸出			
問合せ	電 話	利用について	050-5533-2926	情報サービス係	
		相互利用（ILL）	050-5533-2926	〃	
		歴史資料について	050-5533-2930	〃	
		資料の掲載について	050-5533-2930	〃	
	F A X	042-526-8607			
E-mail	etsuran@nijl.ac.jp				

## 所蔵資料

資 料 種 別			点 数 等	冊 数 等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	195,046 点	42,597 リール
		歴史	202 件	6,308 リール
	マイクロフィッシュ	日本文学	16,667 点	57,358 枚
	紙焼写真本	日本文学	—	75,190 冊
		歴史	—	11,196 冊
図 書	写本・版本		18,079 点	60,148 冊
	活字本・影印本等		—	187,846 冊
	逐次刊行物		9,091 誌	—
所 蔵 史 料			496 件	約 520,000 点
寄託資料・寄託史料		日本文学	11 件	9,537 冊
		歴史	17 件	6,847 点

## 代表的な所蔵資料

### 日本文学関係資料

#### 【貴重書】

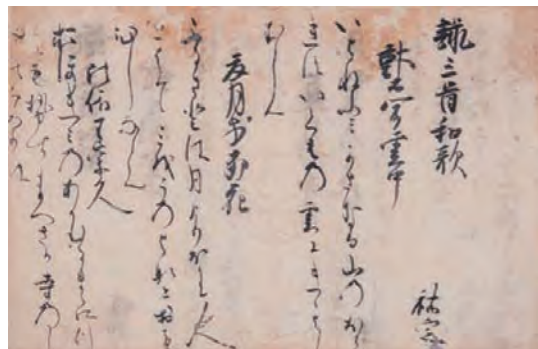
春日懐紙（重要文化財）、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曾我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか206点

#### 【特別コレクション】

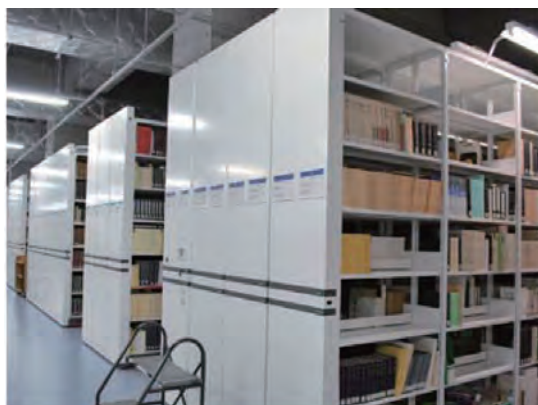
西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション（初雁文庫）、作家中村真一郎旧蔵の江戸、明治の漢詩文集のコレクション（日本漢詩文集コレクション）、『徒然草』ほかのコレクション（高乗勲文庫）、『新古今和歌集』を中心としたコレクション（懐風弄月文庫）、田安德川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類（田安德川家資料（田藩文庫ほか））、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物ならびに文書・記録類（鵜飼文庫）、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類（山鹿文庫）、『伊勢物語』とその関連書のコレクション（鉄心斎文庫）ほか23件

#### 【寄託資料】

金子元臣旧蔵書6点、松野陽一氏蔵書104点、坂田穂好氏古筆切コレクション145点、増田コレクション6,690枚50箱ほか11件



春日懐紙（当館所蔵）



書庫

### 歴史関係資料

所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅している。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めるが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀家文書』『山城国淀稲葉家文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書がある。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書がある。

### 3 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、様々なイベントを開催しています。

#### ■ 展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

#### 2019年度展示予定

##### 企画展示「本のかたち 本のこころ」

2019年10月15日から12月14日まで開催予定

世界にも稀な伝存量と種類の多様さを誇る日本の古典籍について、その豊かな広がりや原本の展示によって紹介します。

表記、レイアウト、挿絵などさまざまな面から光を当てながら特色を紹介するとともに、伝本の稀少な古典籍、教科書に載っている有名な古典籍についても展示する予定です。日本の古典籍の文化遺産としての価値を、改めて見直す機会となることを意図しています。

※なお、本展示は、五島美術館で開催される、古典籍・書誌学をテーマとする「大東急記念文庫創立70周年記念特別展示」（全4部、2019年4月6日～10月20日）と連携した展示です。



展示室

##### 通常展示「和書のさまざま」

2019年1月15日から9月14日まで開催予定

和書について、まず形態的に、次に内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介します。全体を通して和書の基本知識を学んでいただくとともに、和書について考えるきっかけとなることをも意図しています。

##### 通常展示「書物で見る 日本古典文学史」

2020年1月14日から5月頃まで開催予定

上代から明治初期までの文学を、書物(古典籍)によってたどります。最近の研究動向にも配慮をしていますが、むしろ教科書でなじみの深い作品を中心に据えて、文学史の流れを示しました。

写本の表情や版本の風合いに触れながら、豊かな日本古典文学史の諸相をお楽しみいただけるようにしています。

##### 特設コーナー

通常展示開催期間中、展示室の一部のスペースに、特設コーナーを設け、当館の新収資料等を展示しています。

#### ■ 講演会等

##### (1)アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、7月22日(月)～9月13日(金)の間の計6週間、国文学研究資料館で開催し、短期コースはくまもと森都心プラザにおいて11月4日(月)～11月9日(土)に開催を予定しています。



2018年度 アーカイブズ・カレッジ長期コース

## (2)「古典の日」講演会

「古典の日」は、源氏物語千年紀にあたる2008年11月1日にちなんで、源氏物語千年紀委員会(後に古典の日推進委員会と改称)が「11月1日は古典の日」と全国に宣言したのをきっかけに法制化が実現しました。当館も記念の講演会を開催しており、2019年度は11月2日(土)に予定しています。



2018年度「古典の日」講演会

## (3)日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

2019年度は、7月2日(火)～5日(金)に4日間の開催を予定しています。



2018年度 日本古典籍講習会

## 主要出版物一覧

### 当館の紹介など

- 国文学研究資料館概要
- 国文学研究資料館年報
- 国文研ニュース(年2回刊)

### 研究成果

- 国文学研究資料館紀要  
文学研究篇  
アーカイブズ研究篇
- 共同研究成果報告書
- シンポジウム報告書

### 事業関係

- 調査研究報告
- 史料目録
- 国際日本文学研究集會會議録
- 展示図録



国文研ニュース



紀要 文学研究篇



共同研究(特定研究(課題))研究成果報告  
怪力乱神の文学  
一怪異・神秘・混乱一



国際日本文学研究集會  
會議録

# ないじえる芸術共創ラボ 文化庁委託事業（戦略的芸術文化創造推進事業）

当館では、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年度及び開催後の2021年度を見越した中長期的な事業として「ないじえる芸術共創ラボ アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」（「ないじえる」とは当館の英語表記NIJLから）を実施しています。当事業は、当館に所蔵されている豊富な古典籍という文化的資源を、現代社会のニーズに適合した形で積極的に活用することを目的とし、様々な分野のクリエイターを招聘して一定期間滞在しながら創作活動を行ってもらうレジデンス・プログラムを実施し、新たな芸術的価値を共創しています。

具体的には、研究者とクリエイターとのワークショップを行い、創作活動を推進するとともに、地方自治体・団体や、民間企業との連携も強化し、成果発信を兼ねたイベント等を開催しています。また、WEBメディア等を通じた事業内容の配信等を行い、国際的に日本文化の魅力や、古典籍の新たな利活用の在り方を提示・発信しています。

## ●ラボを動かす部門は3つあります。

### ■アーティスト・イン・レジデンス(AIR)

「アーティスト・イン・レジデンス」として、2017年度より著名な作家である川上弘美氏、劇作家・演出家・俳優の長塚圭史氏、アニメーション作家の山村浩二氏の3名を招聘し、さらに2018年度には若手を対象とした公募を行い、日本画家の松平莉奈氏、現代芸術家の梁亜旋氏を招聘しました。滞在アーティストたちが、国文学、古典籍、アーカイブズの研究者等とのワークショップを通じて、当館が所蔵する豊富な古典籍等の文化的資産や専門家の知見に直接触れることで、既存の文学の枠組みを超えた創作活動を推進してゆきます。

### ■トランスレーター・イン・レジデンス(TIR)

「トランスレーター・イン・レジデンス」として、ピーター マクミラン氏をはじめ、著名な翻訳家を招聘し、研究者たちとの協働やワークショップ等を通じて、翻訳すべき古典籍の選定や多言語圏の読者を意識した翻訳、翻訳された作品の海外発信等を実施し、日本文化の国際的発信を積極的に推進してゆきます。

### ■古典インタプリタ

日本古典文学の専門的知識を有するとともに渉外能力等にも長けた人材として「古典インタプリタ」を配置し、AIR・TIRと研究者との共創の場をサポートします。また、日本古典文学に関し、イベント・講演会やメディアを通じて、広く社会に普及する活動を行うとともに、大学や研究機関のみならず、民間企業や地方自治体等との連携活動を通じて、古典籍の幅広い活用を促進してゆきます。



2017年10月18日に開催した記者発表の様子  
右からロバート キャンベル館長、ピーター マクミラン氏、山村浩二氏、長塚圭史氏、有澤特任助教(古典インタプリタ)、(川上弘美氏は欠席)



新AIR2名と当館教員とのワークショップの様子(2019年1月)  
左から入口教授、松平莉奈氏、梁亜旋氏、小林副館長(当時)、木越准教授

## ●イベントでの共創

これまで以下のイベントを開催して成果の発信に努めるとともに、地域や企業と連携し、古典籍の新たな利活用の在り方を提示する先鋭的なプログラムを実施しています。なお、「デジタル発 和書の旅」は、凸版印刷株式会社と協働している出張イベントのシリーズ名です。

### 「デジタル発 和書の旅 湯とアートが鳴子で出会う」

2018年3月9日、於大崎市鳴子温泉早稲田栈敷湯、大崎市・凸版印刷（株）共催

AIRの山村氏・TIRのマクミラン氏と、各々担当の当館教員（木越准教授、小山准教授（当時））が登場し、普段のワークショップや作品創作の様子について発信、続いてキャンベル館長と有澤特任助教（古典インタプリタ）が当館所蔵の古典籍や開催地にゆかりのある資料を用いて、江戸時代の旅文化と入浴文化について考察しました。

### 「デジタル発 和書の旅 山村浩二、蕙斎に逢いにゆく」

2018年6月16日、於国文学研究資料館大会議室、凸版印刷（株）協力

AIRの山村氏が創作中の、江戸時代の絵師・鋤形蕙斎（くわがたけいさい）の絵手本『略画式』シリーズを主要モチーフとしたアニメーション作品「ゆめみのえ」について、第1部では、その過程や『略画式』の魅力を、木越俊介准教授と語り合いました。第2部では、山村氏・キャンベル館長・有澤特任助教（古典インタプリタ）が、蕙斎筆「江都名所図会」（当館蔵）を用いて、江戸の文化や蕙斎の画業について語りました。

「ゆめみのえ」の原画と、創作の源泉となった古典籍展示の様子



### 「デジタル発 和書の旅 ひるがえる和歌たち」

2018年12月9日、於京都市有斐斎弘道館、有斐斎弘道館共催、京都市後援、凸版印刷（株）協力

TIRのマクミラン氏、小山順子氏（京都女子大学文学部教授）による『扇の草紙』（和歌とそれに関する絵画を扇型の画面に収めた作品群）の翻訳と鑑賞について考えるワークショップを行いました。当日は、マクミラン氏が扱う当館所蔵の屏風と絵巻二種類の『扇の草紙』を、凸版印刷株式会社が新たに開発した画像ビューワーで並べて表示をしながら、参加者も一緒に翻訳に取り組みました。



ワークショップの様子

### 「100人ぐりっ首 ―英語でとる百人一首―」

2018年7月25日、於立川市柴崎学習館講堂・体育館、立川市教育委員会後援

立川市を中心とした中高生を対象に、TIRのマクミラン氏が作成した英訳百人一首カルタを用いて、トーナメント形式の百人一首大会を行いました。競技には35名が参加、体育館に敷いた60畳の畳の上で、腕を競い合いました。



競技の様子

### 国際文芸フェスティバルTOKYO「地獄に響く声 ―信仰と創作について考える―」

2018年11月24日、於国文学研究資料館大会議室、リットストック共催、凸版印刷（株）協力

特別展示「祈りと救いの中世」の連携イベントとして、現代に活躍するアーティスト（伊藤比呂美氏、東芋氏、山下晃彦氏、KNOB氏）を招き、キャンベル館長・木越准教授・恋田准教授とトークイベントを行いました。



本事業のロゴ

ロゴには当館所蔵の井原西鶴『好色一代男』版本から抽出した文字を使用しています。三つの三角形は、古典籍の森の木であると同時に、それぞれAIR、TIR、古典インタプリタを象徴しています。

## 多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」

当館では、多摩信用金庫と協定を締結し、多摩地域における学術・文化の発展に関する事業を継続的に実施するために、当館を中心に企業、自治体、大学等各種団体が構成するプラットフォームとして、多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」を設立しました。

「ぷらっとこくぶんけん」の事業として、多摩地域の学術・文化に関する講座、講演会の開催、所蔵資料、データベース等を活用した各団体との連携協力、産学連携の推進を実施していきます。



### 2019年度事業予定

- くずし字講習
- 100人ぐりっ首 英語でとる百人一首
- 「ぷらっとこくぶんけん」カフェ（研究成果の紹介）
- 古典籍データベースを使用した企画  
※年賀状作成、カレンダー作成等のワークショップ
- 和本に親しむ企画  
※和本を作成するワークショップ

### 会員の募集

「ぷらっとこくぶんけん」では、会員を募集しています。会員登録していただいた団体と連携し、

- 参加団体間でネットワークを構築し、情報の集約・共有活用
- プラットフォームを活かした当館の広報・情報発信
- 当館への講演会等の企画提案
- イベントへの優先的なご案内

など、さまざまな活動を行って参ります。

【お問い合わせ】 国文学研究資料館 国際・地域連携企画室 プらっとこくぶんけん担当

E-mail : platform@nijl.ac.jp

# 国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。多様な研究の視野を共有して日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な課題です。このような認識のもとに当館では、国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、海外において研究集会やシンポジウム、セミナーを開催するなど、積極的な活動を行っています。

## 1 学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所（フランス共和国）
- 高麗大学校グローバル日本研究院（大韓民国）
- ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ研究学科（イタリア共和国）
- ナポリ大学「オリエンターレ」（イタリア共和国）
- サピエンツァ ローマ大学イタリア東洋研究学科（イタリア共和国）
- フィレンツェ大学語学・文学・国際文化学部（イタリア共和国）
- 北京外国語大学北京日本学研究中心（中華人民共和国）
- ライデン大学人文学部（オランダ王国）
- プリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科（カナダ）
- コロンビア大学東アジア言語文化学部（アメリカ合衆国）
- カリフォルニア大学バークレー校C.V. スター東アジア図書館（アメリカ合衆国）
- ベルリン国立図書館（ドイツ連邦共和国）
- バチカン図書館（バチカン市国）
- ハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科（アメリカ合衆国）
- ハイデルベルク大学日本学科（ドイツ連邦共和国）
- ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン言語学・文化学・芸術学部（ドイツ連邦共和国）

## 2 国際日本文学研究集会

国内外の日本文学研究者の交流を深め、また、外国人の若手日本文学研究者の育成をも視野に入れ、日本文学研究の発展を図るため、毎年秋に開催しています。

2019年度は11月16日（土）～17日（日）に第43回国際日本文学研究集会を開催します。若手の研究者や外国人研究者がより参加しやすくするために、研究発表・ショートセッション発表及びポスターセッション発表の3つのセッションにおいては、テーマを設定しないこととし、英語による発表も可能としています。



第42回国際日本文学研究集会  
(2018年11月17日～18日)

### 3 海外機関と連携したシンポジウム等

日本文学及び関連領域について、海外の研究者や研究機関と連携し、国際シンポジウム等を開催しています。

#### フォーラム

##### 「東アジアにおける知の往還」第2回—記録と記憶—

2018年10月24日

高麗大学校グローバル日本研究院

当館と韓国・高麗大学校グローバル日本研究院との学術交流協定に基づき、企画されたフォーラムです。

今後、当館の学術交流協定先を中心に、このフォーラムを通じてさまざまな海外機関と協働し、広い視野のもとに継続的な研究交流を展開したいと考えています。

第二回 フォーラム「東アジアにおける知の往還」—記録と記憶—		
<p>◇日時：2018年10月24日（水）午後1時～</p> <p>◇場所：高麗大学校 グローバル日本研究院の201号室（内附議室）</p> <p>◇主催：高麗大学校 グローバル日本研究院、国文学研究資料館</p>		
	司会	李秀英（高麗大学校グローバル日本研究院）
13:10～13:20	ご挨拶	韓承正（高麗大学校グローバル日本研究院）
		ロバート・キヤンペル（国文学研究資料館）
13:20～13:30	発表①	森村誠三（国文学研究資料館） 「戦時体制下の知の往還—記録と記憶をめぐって—」
13:30～13:40	発表②	朴海星（高麗大学校グローバル日本研究院） 「権威と歴史記録：李朝の漢文事件」
13:40～13:50	発表③	森井英道（成蹊大学） 「『家花物語』の誕生と東アジアの歴史叙述」
14:20～14:30	休憩	
14:30～14:40	発表④	野間聖子（国文学研究資料館） 「戦時体制下の知の往還」
14:40～14:50	発表⑤	金孝利（高麗大学校グローバル日本研究院） 「在日朝鮮人帰国事業の記録と東アジアにおける
14:50～15:00	発表⑥	「平和な記憶」
<p>◇使用言語：日本語</p> <p>◇発表時間：お一人の発表時間は、発表・質疑応答を含めて30分</p>		

### 4 日本古典籍セミナー

日本文化の礎である古典籍について、海外の研究者や研究機関等と連携し、書誌学や書物文化を中心としたセミナーを開催しています。

第6回 2018年9月6日 カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館（アメリカ合衆国）

第7回 2019年2月26日 北京外国語大学北京日本学研究中心（中華人民共和国）

第8回 2019年3月1日 ハワイ大学マノア校・ホノルル美術館（アメリカ合衆国）



第7回 日本古典籍セミナー



第8回 日本古典籍セミナー

### 5 海外研究者との交流（外国人研究員・外来研究員）

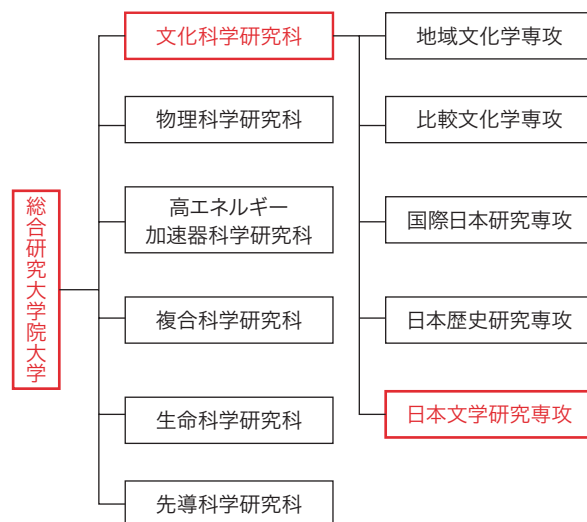
日本文学研究の国際化を促進するために、広く海外において第一線で活躍する日本文学及びその周辺の研究者を外国人研究員（客員教授、客員准教授）として招聘し、学術資料の利用及び人材交流の場として当館を提供しています。また、海外の研究者等の要請に応じ、当館を拠点にして学位論文執筆や様々な研究活動を行う方を外来研究員として受け入れています。

# 大学院教育

## ■総合研究大学院大学文化科学研究科 日本文学研究専攻

国文学研究資料館は、総合研究大学院大学（本部は神奈川県葉山町）文化科学研究科日本文学研究専攻の基盤機関となっています。

本専攻は、2003年度に設置され（入学定員各学年3名）、博士後期課程（ドクターコース）のみの教育研究を行っています。国文学研究資料館が豊富に所蔵している原典資料を文化情報資源として位置づけ、これを活用して、書物及び作品としての特質や、隣接諸学との関連などを総合的に研究することを通じて、専門研究者を育成することを目的としています。



2018年度春季学位記授与式

## ■特別共同利用研究員制度

国公立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、学生の研究指導を行っています。

この目的のため、1979年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、1998年度から特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

大学院に在籍し、日本文学、歴史学及びこれらに関連する分野を専攻する者を受入対象とし、毎年10人程度を受け入れています。受入期間は、原則として1年間です。

(単位：人)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
受入人数	5	9	7	2	2

# 公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、当館では様々なデータベースを作成しています。

以下のデータベースを当館ウェブサイトの電子資料館

(<https://www.nijl.ac.jp/search-find/#database>) で公開しています。

図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録。
国文学論文目録データベース	明治21年から現在に至る国文学関係論文の目録。
新日本古典籍総合データベース	「歴史的典籍NW事業」により構築している古典籍のデータベース <sup>※1</sup> 。
日本古典籍総合目録データベース	日本の古典籍の書誌・所在情報を、著作・著者の情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録。
館蔵和古書目録データベース	当館所蔵の和古書の目録。
古典選集本文データベース	二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語、奈良絵本の当館蔵書底本テキストの全文検索と画像閲覧。
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	2011年度科学研究費補助金に基づく広島大学附属図書館所蔵「読本」コレクションの画像公開。
日本古典資料調査記録データベース	当館が調査してきた国内外の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出。
近代書誌・近代画像データベース	明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。
収蔵歴史アーカイブズデータベース	史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料 (アーカイブズ) の概要及び目録を収録。
コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報。
明治期出版広告データベース	近代日本の出版事情を探ることを目的とし、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成。
歴史人物画像データベース	国書古典籍中の絵入り叢伝から、主に明治以前の古典キャラクターの人物画像を収録。また、伝記解題は当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化。
連歌・演能・雅楽データベース	連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添え、セットにして公開。
新奈良絵本データベース	当館所蔵の奈良絵本 (19本) の原本画像を公開 (翻刻付)。
古事類苑データベース	日本の古代から近世までの制度・文物・社会に関する百科事典『古事類苑』大正洋装本のデータベース。
古典学統合データベース (地下家伝・芳賀人名辞典)	日本の古典研究に関わる人物情報を収録。現在、『日本人辞典』と『地下家伝』を搭載。
古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報。
日本文学国際共同研究データアーカイブ	科研費基盤研究 (S) 「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究目録・論文画像・翻訳作品等のデータベースをアーカイブ化。
蔵書印データベース	当館所蔵の古典籍を中心に、原本から採取した蔵書印情報を印影とともに収録。
アーカイブズ学文献データベース	アーカイブズ学に関する国内研究文献データベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。
史料情報共有化データベース	国内外で公開されている資料群 (アーカイブズ) 情報 (歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築)。
日本実業史博物館コレクションデータベース	日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち絵画・器物・広告・文書・書籍の資料情報と画像を公開。
館蔵社寺明細帳データベース	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格等を収録。
伊豆菰山江川家文書データベース	財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。
史料所在情報データベース	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報 (詳細版は利用登録制)。
増田太次郎広告コレクションデータベース	増田太次郎氏が収集した広告類の主要部分の書誌情報・画像を公開。
近世語彙カードデータベース	歌舞伎・浄瑠璃用語など約15万枚の近世語彙カードのデータベース。
在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語 (一部日本語も有) で提供。
断本大系本文データベース	『断本大系』 (東京堂出版刊) の全文検索。
日本古典文学大系本文データベース	旧版『日本古典文学大系』 (岩波書店刊) の全文検索 (大学・短大以上の高等教育機関などに対して公開)。
マリオ・マレガ資料データベース	マリオ・マレガ収集のキリシタン関係文書およびマレガ資料等の目録・画像を公開。

2019年4月1日現在

※1 新日本古典籍総合データベースについては、9頁をご覧ください。

※2 学術情報リポジトリについては、こちらをご覧ください。 <https://kokubunken.repo.nii.ac.jp>

# 教員一覧 (2019年4月1日現在)

## 館長

氏 名	研 究 内 容
ロバート キャンベル Robert CAMPBELL	日本文学（近世から明治の文学およびそれに関連する芸術・思想・メディアなど）

## 研究部

氏 名	職 名	研 究 内 容
山下 則子 YAMASHITA Noriko	教授 副館長（企画調整担当）	近世文学・芸能の研究。特に絵本・浮世絵を対象とし、四世鶴屋南北作歌舞伎の作品研究も行う。
谷川 恵一 TANIKAWA Keiichi	教授 副館長（研究担当）	近代文学成立期の研究
神作 研一 KANSAKU Ken-ichi	教授 （研究主幹）	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
齋藤 真麻理 SAITO Maori	教授 （研究主幹）	中世文学の研究
渡辺 浩一 WATANABE Koichi	教授 （研究主幹）	近世都市の社会構造、アーカイブズ史
入口 敦志 IRIGUCHI Atsushi	教授	近世文学研究
海野 圭介 UNNO Keisuke	教授	中世文学・和歌文学の研究、禁裏公家を中心とした古典学に関する研究
大友 一雄 OTOMO Kazuo	教授	近世日本の記録管理、アーカイブズの歴史
落合 博志 OCHIAI Hiroshi	教授	中世文学・中世芸能の研究、古典籍書誌学の研究
藤實 久美子 FUJIZANE Kumiko	教授	日本近世・幕末維新期の政治文化の研究。書籍史料論の構築
山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki	教授	19世紀文学の研究
相田 満 AIDA Mitsuru	准教授	中古・中世日本文学、幼学書を中心とする学問・注釈学、説話文学、人文情報学
青木 睦 AOKI Mutsumi	准教授	史料保存に関する研究
青田 寿美 AOTA Sumi	准教授	日本近代文学、特に明治大正期の評論・小説の研究
太田 尚宏 OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究
加藤 聖文 KATO Kiyofumi	准教授	近代以降の東アジアと日本との関係
木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke	准教授	日本近世文学、特に小説史の研究
恋田 知子 KOIDA Tomoko	准教授	中世文芸の研究
ダヴァン ディディエ DAVIN Didier	准教授	中世仏教と文学
西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro	准教授	近世日本における天皇・朝廷・身分研究、民間所在資料の保存・利活用に関する研究
野網 摩利子 NOAMI Mariko	准教授	日本近代文学、長編小説の研究、日本近代における東西古典の受容

氏 名			職 名	研 究 内 容
野 本	忠 司	NOMOTO Tadashi	准教授	国文学研究における情報利用の高度化に関する研究
山 本	嘉 孝	YAMAMOTO Yoshitaka	准教授	日本漢文学、特に江戸・明治期の漢詩文
江 戸	英 雄	EDO Hideo	助教	中古文学、特に物語文学の研究
ノット	ジェフリー	KNOTT Jeffrey	助教	中世における古典学・古典文学の受容史研究
有 澤	知 世	ARISAWA Tomoyo	特任助教	日本近世文学、特に江戸戯作の研究
岡 田	貴 憲	OKADA Takanori	特任助教	平安時代物語・日記文学の研究
糸	汐 里	KUME Shiori	特任助教	中世末期・近世初期の日本の語り物文芸（幸若舞曲、説経、古浄瑠璃）の研究

## ■ 古典籍共同研究事業センター

氏 名			職 名	研 究 内 容
谷 川	恵 一	TANIKAWA Keiichi	センター長 (兼任)	近代文学成立期の研究
北 村	啓 子	KITAMURA Keiko	准教授	人文科学分野を対象とする情報科学理論の研究
岩 橋	清 美	IWAHASHI Kiyomi	特任准教授	近世地域文化史研究、史料管理史研究
宮 本	祐規子	MIYAMOTO Yukiko	特任准教授	日本近世文学、特に小説・演劇の研究
井 黒	佳穂子	IGURO Kahoko	特任助教	中世から近世初期にかけての絵巻・絵入り本に関する研究
岡 田	一 祐	OKADA Kazuhiro	特任助教	近代・近世日本語の研究
松 田	訓 典	MATSUDA Kuninori	特任助教	人文学におけるコンピューター利用に関する研究

# 参考データ

## 職員・予算・施設 (2019年度)

職員	(単位：人)	予算	(単位：千円)	施設	(単位：m <sup>2</sup> )
館長	1	収入	1,253,587	建物面積 専有面積	13,002
教授	11	運営費交付金	1,248,291	上記の内	
准教授	13	自己収入	5,296	閲覧室	1,584
助教	2	支出	1,253,587	書庫・収蔵庫	2,416
特任准教授	2	教育研究経費	782,250	展示室	355
特任助教	4	一般管理費	471,337		
事務系職員	41				
合計	74				

## 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)(2019年度)

研究種目	応募区分	研究代表者	研究課題名	研究期間
基盤研究(A)	一般	今西祐一郎	日本古典籍における表記情報学の発展的研究	2015～2019
基盤研究(A)	一般	相田 満	日本における「生き物供養」「何でも供養」の連環的研究基盤の構築	2016～2020
基盤研究(A)	一般	青木 睦	地域社会還元型の公文書活用システム構築に関する学際的研究	2016～2019
基盤研究(A)	一般	加藤 聖文	アーカイブズによる「地域力」再生と持続的社会的基盤創成研究	2019～2022
基盤研究(A)	海外学術調査	大友 一雄	パチカン図書館所蔵豊後切支丹資料の国際的情報資源化に関する海外学術調査研究	2016～2020
基盤研究(B)	一般	海野 圭介	金剛寺聖教・文書類を基盤とした社寺ネットワークの解明とその蔵書史的研究	2015～2019
基盤研究(B)	一般	小林 健二	語り物を題材とした絵巻・絵本の国際的調査研究	2017～2019
基盤研究(B)	一般	渡辺 浩一	自然と人間の相互関係としての近世都市災害研究	2018～2022
基盤研究(B)	一般	海野 圭介	金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究	2019～2022
基盤研究(B)	一般	上梶 英之	災害碑アーカイブ構築を目的とした市民参加型調査の実践	2019～2021
基盤研究(B)	海外学術調査	山下 則子	在外絵入り本を中心とする書誌・出版・解釈の総合的研究	2014～2019
基盤研究(C)	一般	恋田 知子	16・17世紀における物語草子制作と仮名法語の開版の相関性についての研究	2016～2019
基盤研究(C)	一般	木越 俊介	19世紀初頭・長編小説生成熟期における構成・素材・記述に関する総合的研究	2016～2019
基盤研究(C)	一般	大高 洋司	後期読本の長編構成に関する複眼的検討	2016～2019
基盤研究(C)	一般	齋藤真麻理	中近世日本における画題享受史の構築	2017～2019
基盤研究(C)	一般	岩橋 清美	江戸考証家の古器物収集に見る歴史意識の特質とネットワークに関する研究	2017～2019
基盤研究(C)	一般	ダヴァン ティティエ	禅僧仮名法語の思想的なマッピング	2018～2020
基盤研究(C)	一般	恋田 知子	17世紀後半における奈良絵本・絵巻制作の研究ー『十二月絵巻』を中心にー	2019～2021
基盤研究(C)	一般	神作 研一	歌書を中心とした江戸時代の絵本と絵入本に関する基礎的研究	2019～2021
基盤研究(C)	一般	武井 協三	『弘前藩庁日記』演劇上演記録の研究ー享保期座敷芝居の解明ー	2019～2021
基盤研究(C)	一般	三野 行徳	近代移行期、蝦夷地・北海道分領支配に関する歴史情報の復元的研究	2019～2021
挑戦的研究(開拓)		青田 寿美	蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェースの開発	2018～2021
若手研究(B)		上梶 英之	風化金石文復元の為の用例辞書及び文字予測データベースの開発	2016～2019
若手研究(B)		岡田 一祐	平仮名字体データベースと19世紀教科書平仮名字体コーパスの連携による平仮名史研究	2017～2019
若手研究		山本 嘉孝	木下順庵の漢詩における盛唐詩受容の研究	2018～2021
若手研究		館野 文昭	鴉鷺系歌学書の検討を軸とした秘伝的歌学書・歌学知の生成と展開に関する研究	2018～2020
若手研究		有澤 知世	考証趣味のネットワークと戯作との関わりを手掛かりとした近世後期文芸の研究	2018～2021
若手研究		黄 昱	説話に見られる日中動物観の比較研究ー『太平広記』と『夷堅志』、『夷堅志和解』	2018～2020
若手研究		宮本祐規子	西鶴以降の前期小説と芸能・絵画との交流をめぐる発展的研究	2019～2022
若手研究		岡田 貴憲	平安時代日記文学の生成・受容実態についての研究	2019～2022
若手研究		井黒佳穂子	『玉水物語』にみる種と性の越境	2019～2021
若手研究		桑 汐里	〈判官物〉の語り物の基礎的研究ー幸若舞曲・説経・古浄瑠璃の影響関係の究明	2019～2022
若手研究		高見 純	16世紀イタリア都市における福祉と兄弟会：アーカイブズの形成と財政的展開から	2019～2020
特別研究員奨励費		田部 知季	明治俳句表現史の研究ー近代俳句データベースの構築を見据えてー	2019～2021
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)		野網摩利子	夏目漱石によるイギリス受容ー小説理論の構築の一環として(国際共同研究強化)	2016～2019
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		神作 研一	在米日本古典籍(リチャードレインコレクション)の調査研究と教育活用に関する研究	2018～2021
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		加藤 聖文	日ソ戦争アーカイブズ構築に関する日露共同研究	2018～2021
研究成果公開促進費(学術図書)		山下 則子	在外絵入り本 研究と目録	2019
研究成果公開促進費(学術図書)		野網摩利子	世界文学と日本近代文学	2019
研究成果公開促進費(データベース)		山本 和明	所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	2016～2020
研究成果公開促進費(データベース)		青田 寿美	明治前期出版広告データベース	2017～2021
研究成果公開促進費(データベース)		神作 研一	日本古典籍総合目録	2019

(2019年4月25日現在)



大学共同利用機関法人

# 人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構（略称：人文機構）は、4つの大学共同利用機関法人のうちの1つであり、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関で構成されています。それぞれの機関は、人間文化研究の各分野におけるわが国の中核的研究拠点、国際的研究拠点として基盤的研究を深める一方、学問的伝統の枠を超えて相補的に結びつき、国内外の研究機関とも連携して、現代社会における諸課題の解明と解決に挑戦しています。真に豊かな人間生活の実現に向け、人間文化の研究を推進し、新たな価値の創造を目指します。

## 研究推進・情報発信事業

人文機構は、2016年度に総合人間文化研究推進センターと総合情報発信センターを設置しました。

2つのセンターでは、6つの機関をハブとした研究ネットワークを構築して国際共同研究を推進するとともに、国内外への積極的な発信や次代を担う若手研究者の育成に取り組みます。

### 総合人間文化研究推進センター

6つの機関と国内外の大学等研究機関や地域社会との連携・協力を促進し、人間文化の新たな価値体系の創出に向けて、現代的諸課題の解明に資する組織的共同研究「基幹研究プロジェクト」を推進しています。

### 総合人間文化研究推進センターが推進する基幹研究プロジェクト

機関拠点型	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築
	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築
	多様な言語資源に基づく総合的日本語研究の開拓
	大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出
	アジアの多様な自然・文化複合に基づく未来可能社会の創発
広領域連携型	人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築
	日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築
	アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開
ネットワーク型	異分野融合による「総合書物学」の構築
	地域研究推進事業：北東アジア、現代中東、南アジア
ネットワーキング型	日本関連在外資料調査研究・活用事業：
	ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用
	パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書調査研究・保存・活用
	北米における日本関連在外資料調査研究・活用
プロジェクト型	プロジェクト間連携による研究成果活用

4つの大学共同利用機関法人



人文機構本部と6つの大学共同利用機関の所在地



### 総合情報発信センター

人間文化にかかわる総合的学術研究資源をデジタル化することで、広く国内外の大学や研究者への活用を促進するとともに、社会との双方向的な連携を強化することで、研究成果の社会還元を推進しています。

### 総合情報発信センターの情報・発信事業

研究資源高度連携事業 nihuINT <a href="https://int.nihu.jp">https://int.nihu.jp</a> 機構内外の情報資源を統合検索する、人間文化研究データベース
情報発信事業 リポジトリ <a href="https://www.nihu.jp/ja/publication/database#repo">https://www.nihu.jp/ja/publication/database#repo</a> 国際的に研究成果を発信するため各機関でリポジトリを公開 研究者データベース <a href="http://nrd.nihu.jp">http://nrd.nihu.jp</a> 機構所属の研究者情報を一元的に公開する研究者データベース運用 国際リンク集 <a href="https://guides.nihu.jp/japan_links">https://guides.nihu.jp/japan_links</a> 日本文化研究情報への総合的アクセスを支援するためのリンク集を構築し運用 NIHU Magazine <a href="https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine">https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine</a> 機構の最新の研究活動、成果を海外に発信するウェブマガジン
人文機構シンポジウム <a href="https://www.nihu.jp/ja/event/symposium">https://www.nihu.jp/ja/event/symposium</a> 第33回 鹿児島県の歴史再発見－新しい地域文化像を求めて 第34回 市民とともに地域を学ぶ－日本と台湾にみる地域文化の活用術 第35回 中東と日本をつなぐ音の道－音楽から地球社会の共生を考える
社会連携事業 産業界や外部機関と連携し、研究成果の社会還元を推進 ・味の素の文化センターと共催でシンポジウムを開催 ・大手町アカデミアと連携し、特別講座を開催 ・国際交流基金と共催で「ジャポニスム2018」の公式シンポジウムを開催

## 歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

機構（主導機関：歴博）、東北大学、神戸大学を中核として、全国各地の主に大学を中心に活動する「史料ネット」との連携構築を通じて、資料調査とデータ記録化、広域的相互支援体制の確立、資料保存研究等の歴史文化資料保全事業を推進します。さらに資料を活用した研究や教育プログラム開発、国内外に向けた情報発信を通じて、地域社会における歴史文化の継承と創成を目指します。

## 博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業

機構の6機関と大学等研究機関とが連携し、博物館および展示を活用して人間文化に関する最先端研究を可視化し、多分野協業や社会との共創により研究を高度化して新領域創成を図る研究推進モデル「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化サイクル」を構築します。また本事業においては、大学等におけるカリキュラムの提案・実践を行うとともに、研究展示・映像・フォーラム等の企画・制作・運営を通じて「人文知コミュニケーター」を育成し、社会の課題と向き合う新たな知の構築を目指します。



移動型展示ユニットによる消滅危機言語・方言の展示（於：羽田空港、撮影：籠宮隆之）

## 人文知コミュニケーター

展示など多様な発信媒体、機会を活用して人間文化研究の成果をわかりやすく社会に伝えけるとともに、研究に対する社会からの要望、反響を吸上げ、研究現場に還元するスキルを有した研究者として、「人文知コミュニケーター」の組織的育成事業を実施しています。研究者と社会を「つなぐ人」として、社会連携や共創を推進し、人文学の振興、発展に貢献します。

## 社会連携

地域社会や産業界などと連携し、人間文化研究成果の社会還元を推進しています。

### 2018年度の連携事業

- ・味の素の文化センターとシポジウム「地域と都市が創る新しい食文化」を共催
- ・大手町アカデミア（YOMIURI ONLINE、中央公論新社）特別講座「漆（japan）から日本史が見える－『シーボルトの日本コレクション』を中心に」及び「世界から方言が消えたなら？－知られざる『弱小言語』の魅力」を開催
- ・国際交流基金と共催でジャポニスム2018シンポジウム「フランス人がみた日本／日本人がみたフランス」を開催



大手町アカデミア人文機構特別講座  
（於：読売新聞東京本社、写真提供：大手町アカデミア）



ジャポニスム2018シンポジウム「フランス人がみた日本／日本人がみたフランス」（於：パリ日本文化会館）

## 大学院教育

国立大学法人総合研究大学院大学（総研大）の基盤機関として、文化科学研究科に4つの機関が各機関の特色を生かした5つの専攻（博士後期課程）を設置し、高い専門性と広い視野を持った研究者を養成しています。また、機構の6つの機関では、他大学の大学院生を受け入れてその研究を支援するなど、次世代を担う人材育成に貢献しています。

総研大文化科学研究科の各専攻

- 地域文化学専攻（民博）
- 比較文化学専攻（民博）
- 国際日本研究専攻（日文研）
- 日本歴史研究専攻（歴博）
- 日本文学研究専攻（国文研）



## 交通のご案内

### 多摩都市モノレール利用の場合

JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

### 立川バスの場合

JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

### 徒歩の場合

JR立川駅下車、徒歩約25分

### 自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中IC」から約15分

※無料駐車場あり

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



# 国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL: 050-5533-2900

FAX: 042-526-8604

<https://www.nijl.ac.jp/>

**National Institute of Japanese Literature (NIJL)**  
**National Institutes for the Humanities**

Address: 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan

TEL: +81-50-5533-2900

FAX: +81-42-526-8604